

# 第3章

## 青少年科学館の活用の方針 ～科学館の今後の在り方について～

### 1 社会状況等の変化を踏まえた展示物や施設設備の機能の充実

科学技術や自然災害・環境問題なども、私たちの生活と密接に結び付いています。市民がその結び付きを理解するためには、専門家が科学に関する知識を分かりやすく伝え、市民の疑問について答える双方向コミュニケーションの必要性が高まっています。更に、天文学や生物学など、研究等が急速に進んでいる分野についての情報発信の在り方についても対応が求められています。

このような中、科学館が今後も設置目的を十分に果たしていくためには、展示構成や展示手法を見直すとともに、展示テーマに基づき、科学や科学技術に関する知識をより分かりやすく伝える必要があります。

そのため、利用者が科学館全体の統一感やテーマ・分野ごとの統一感を感じられるよう展示物を整理・更新するとともに、時代や社会状況の変化、今後の事業展開を踏まえた施設設備にしていく必要があります。

#### (1) 社会状況を踏まえた取組の充実

展示物や各種イベントについては「自然災害」や「環境」、「先端技術」など現代の社会状況を踏まえたテーマに関する内容が求められています。特に研究が進展している分野については、考えるきっかけを提供しながら理解を深めることができる展示構成や展示手法だけでなく、科学普及啓発事業の拡充により、科学館に来るたびに好奇心を抱くことができるような取組の充実を目指します。

#### (2) 科学館全体の統一感、テーマ・分野ごとの統一感の明確化

科学館全体として、またフロアごと、分野ごとに統一感を持たせるため、展示物相互の関係を明確にし、体系的に科学的な知識を習得できるような施設づくりを目指します。

#### (3) 企業・大学等との連携強化

企業・大学等との連携強化をさらに推進することで、最新の科学や科学技術についての情報を科学館から市民に定期的に発信します。そのため、企業・大学等との連携が図りやすい施設づくりを目指します。

また、興味・関心を高めるきっかけとなるよう、「札幌（北海道）」で進められている地域に根ざした研究の情報を発信するなどの工夫を図ります。

#### (4) 科学研究の進歩への対応

科学館の魅力の一つである宇宙分野に関しては、研究等が急速に進んでおり、また市民の関心が特に高い分野であるため、最新の情報を発信していくとともに、その他の分野についても各種施設設備を活用しながら市民の興味・関心に対応した取組の充実を目指します。

## 2 市民の誰もが学べる環境づくり

今後も、科学館では青少年を主体とした魅力づくりを続けるとともに、新さっぽろ地区の再開発により来場する利用者層が変化していく可能性を踏まえ、多様な利用者に対応できる施設づくりを目指します。

そのためには、多様な市民が科学について主体的に学ぶことができる事業を展開するとともに、事業展開しやすい環境を整える必要があります。

#### (1) 多様な市民が利用しやすい施設づくり

青少年のほか、乳幼児やその保護者、障がいのある方や高齢の方など、多様な市民の生涯学習を支える場としての施設づくりを目指します。

#### (2) 体験性や遊戯性の向上

科学館は、手で触れて感じたり乗り物に乗ったりするなどの体験を通じて、幼児から大人まで誰もが科学を楽しく学べるきっかけを提供します。また、クイズやゲームなどの遊戯性を備えた展示物を拡充することで、科学館の魅力の向上を目指します。

更に、友達や親子など複数人で一緒に体験できる展示や事業などの充実を目指します。

#### (3) 学びの実践の場の提供

企業や大学、市民等が、研究成果の発表や科学の解説・説明などを通して、科学の知識を伝え合う実践の場として活用できる施設を目指します。

## 3 学校教育との連携の推進

学校教育における科学館の活用については、大人数で利用するための施設設備の機能の充実や、展示物と理科とを関連付けて学ぶきっかけの充実を目指します。

また、学校の授業として科学館を活用できるよう、展示物や施設設備の機能強化を図り、科学館での理科教育の支援の一層の充実を目指します。

なお、科学館での理科教育の支援の充実を図る方策の一つとして、現有の展示物での小中学校の理科授業における科学館の活用事例を整理します。

### (1) 展示や施設設備の機能強化

科学への興味・関心を高めるための体験学習の場や主体的に課題を見出し、研究・発表ができる学習活動の場を提供するため、学校では体験することが難しい大規模な実験やサイエンスショーなど、科学館の特長を生かした学習の実施に向け、学級単位等での受入れが可能となる展示空間と施設設備の充実を目指します。

### (2) 学びを深めるきっかけの充実

展示物と理科を関連付けて学習させるため、適切な解説を提供することや、展示で学んだことをその場で調べて学習できる機能の充実を目指します。

また、科学館に来館できない学校への授業支援など、より多くの子どもたちが学びを深められる機会の充実を目指します。